

八郎たいむず

☆学校教育目標
気づく目・感じる心を持ち
主体的に行動する
生徒の育成

自分たちの手で…

皆さん、おはようございます。月曜日からテストが始まり登校してはいますが、二学期の正式な始まりは今日からです。昨日、職員室前の廊下であった生徒たちに「テストの出来はどうだった？」と尋ねたところ、天気で表すと「曇（くも）り」と答えてくれました。「曇り時々晴れ、くらいかな」と私が付け足すとにこりと笑顔を見せてくれました。皆さんが元気に二学期のスタートに臨んでくれたことを心からうれしく思います。

さて、少しだけこの夏を振り返ってみましょう。

皆さんにとっては初めて経験したオリンピック、二年ぶりに開催された甲子園とスポーツ界は活気づいていました。文化面でも、将棋の藤井二冠は自身の持つタイトルを防衛し、今、新たなタイトルに手が届かろうとしています。同じコロナ禍ながら、昨年度よりも明るい話題が多かった夏休みでした。

そのような中、私の心に一番印象に残っているのは、オリンピック柔道で**金メダルを獲得した、長崎出身の永瀬選手**のことです。

永瀬選手は、今回、見事に金メダルを獲得しましたが、これまでの道のりは決して平坦ではありませんでした。早くから期待される「将来のオリンピック金メダル候補」と言われながら、前回のリオデジャネイロオリンピックでは銅メダル。その他の大会では優勝こそありましたが、けがをしたこともあり、苦勞の多い時を過ごしていました。今回の東京オリンピックも、楽に勝てた試合はほとんどなく、粘り強く闘い、粘り勝ちして勝利を収めました。

派手さはないものの、永瀬選手の強さは他の代表選手も認めるところです。井上監督も「永瀬ほど練習するやつはいない」と舌を巻いていました。こつこつと地道に、諦めることなく努力を積み重ねてきた。その結果が今回の金メダルにつながりました。



今、世界中がコロナ禍で苦しんでいます。皆さんもこの夏、思い描いていたことがほとんどできない夏休みだったかもしれません。二学期のスタートもこのように、顔を合わせたの集会を持つことができず、顔を合わせるから行事もコロナの影響でどうなるかわかりません。

しかし、私たちは前を向いて進まねばなりません。永瀬選手も「金メダルが獲得できるかどうかかわらない」そのような状況の中で、

今自分がなすべきことをこなしてきました。「結果はどうなるかわからない。しかし、よりよい結果を目指して、やれることをやる」・・・金メダル獲得よりも、その姿勢にこそ価値があります。その姿勢を皆さんにも学んでもらいたいです。その姿勢で一日一日を大切に過ごしていけば、今の苦勞は、皆さんのこれからの長い人生の中で必ず生かされるはずですよ。いや、生かされるようにしてください。

一学期の終業式の際、皆さんにお願いしたことです。

「落ち着こう。地に足を付けて、あせらず、あわてずじっくりと、自分のこと、自分の将来のことをしっかり考えよう」・・・これを二学期も続けてください。周りがどのような状況であっても、コロナがどのような状況になろうとも、皆さんが、今身につけなければならぬことは同じです。十五の春、次のステップに向けて力強く進んでいける力を蓄えることです。

二学期はどの学年にとっても大きな分岐点となります。特に三年生は人生の分岐点と言ってもいい進路選択の時期となります。今まで過ごしたどの「二学期」よりも充実した二学期にしてもらいたいと思います。それを後押しするのは二年生・一年生の皆さんです。三年生が安心して今後の土井首中学校を任せられるような、下級生になってください。

コロナに負けることなく、自分たちの手で**実り多き二学期にしてください。**皆さんのがんばりを大いに期待して、二学期始業式の言葉とします。